



この四月、公太は晴れて中学生になった。学校は公太の家からは駅の反対側にあるので、実際に学校まで歩いて何分かかるか入学式の前に確かめてみようと思った。

柔らかな光が降り注ぎ、公太の入学を祝福しているかのような朝だった。駅に向かって歩いていると、作業服のようなグレ

「暗くて、ちょっとこわい」と思いつつ、足早に表に出る階段を上った。線路を渡れば中学校はもう少し。学校のシンボルである大きな時計が見え、トータル二十分で校門に着いた。

教室までは余裕を考慮して二十五分あれば着くかな。公太はこれから始まる学園生活に胸を膨らませた。

その帰り道。あの薄暗い地下道に入ったときだった。視線の少し先に、さっきの作業服のおじいさんの姿があった。体を丸めてうずくまっている。どうしたのだろう。気分でも悪いのだろうか。公太がそのおじいさんに近づいてみると、道路にはりついたタバコの吸殻を一生懸命手ではがしていたのだった。「そうか。掃除の人なんだ！公太は疑問が解けてその場を通り過ぎた。

新学期が始まった。真新しい制服を着た公太を、おかあさんは、「い

つてらっしやい」と送り出してくれる。中学生になった公太を応援してくれるような、はずんだ声だった。

十分ほど歩いたであろうか、駅前の広場に近づいた時、あの掃除のおじいさんがいた。ビニール袋には空き缶が入っていた。すると、また別の日も駅前でもゴミを拾っていた。商店街にもいたこともあった。でも、いつも一人ぼっち。一緒に働いている人はいないのだろうか。公太は、だんだんとおじいさんのことが気になっていった。

テストで早めに下校した日だった。例のおじいさんが駅前のベンチで休んでいたのを見て、公太は勇気を出して声をかけてみた。「あのー、いつも一人で掃除をしているのですか？」

始めは、びっくりしたような顔で公太を見たおじいさんだったが、すぐに表情をくずしてこういった。「そうなんだよ。

たいしたことはできないけど、少しでも街がきれいになればいいと思って。」「じゃあ、もしかしてボランティア？」「そうそう。おじいさんは、ゴミの入ったビニール袋を掲げて公太に見せてくれた。このおじいさんは、仕事で掃除をしているわけではなかったんだ。

「いつもありがとうございます。公太が素直に思いを伝えられたのは、街をきれいにするなんて口で言うほど簡単じゃないのに、この人はただ、もくもくと実行していることに驚いたのだ。すると、おじいさんは「若い人に声をかけられてうれしんだよ」と喜んでくれた。

その後、通学路でおじいさんを見かけると公太はあいさつをするようになった。五月になり、学校にも慣れたころ、胸に秘めた思いを伝えてみた。「ぼくもお掃除を手伝いたいです」と。

(挿し絵・小出 茂) (完)

おはなし散歩道
ぼくも一緒に

八王子市 池田美絵

この四月、公太は晴れて中学生になった。学校は公太の家からは駅の反対側にあるので、実際に学校まで歩いて何分かかるか入学式の前に確かめてみようと思った。

柔らかな光が降り注ぎ、公太の入学を祝福しているかのような朝だった。駅に向かって歩いていると、作業服のようなグレ

「暗くて、ちょっとこわい」と思いつつ、足早に表に出る階段を上った。線路を渡れば中学校はもう少し。学校のシンボルである大きな時計が見え、トータル二十分で校門に着いた。

教室までは余裕を考慮して二十五分あれば着くかな。公太はこれから始まる学園生活に胸を膨らませた。

その帰り道。あの薄暗い地下道に入ったときだった。視線の少し先に、さっきの作業服のおじいさんの姿があった。体を丸めてうずくまっている。どうしたのだろう。気分でも悪いのだろうか。公太がそのおじいさんに近づいてみると、道路にはりついたタバコの吸殻を一生懸命手ではがしていたのだった。「そうか。掃除の人なんだ！公太は疑問が解けてその場を通り過ぎた。

新学期が始まった。真新しい制服を着た公太を、おかあさんは、「い

日野わがくさ幼稚園の園児達より
お礼のメッセージカードが届く



様々なメッセージカードを頂きました

去る二月二十二日、日野市内にある「日野わがくさ幼稚園」の園児達が、寒さに負けず元気に高尾山を訪れました。

園児達は、四天王門脇の天狗像の前における山伏による天狗の説明の際には、山伏がほら貝を立てると、それまで賑やかだった子供達が静かになり、お話を真剣に聞いておりました。

その後、大本坊二階でお土産のお守りを受け取り、山伏に天狗についての質問をしました。

後日、子供達よりお礼のメッセージカードが届きましたので、その一部を紹介致します。



山伏と一緒に天狗像の前で記念撮影する園児達